



特集 ザ・協働
三原のまちの将来像を考える

日本版パリッシュ (小さな自治体) の導入

～三原のまちをよくしたいと強く思うところ～

おさらい

9月号本紙面では、現在の日本における中央集権型社会が、地方を疲弊させているという現状認識のもと、国においては道・州に権限を委譲する一方で、地方自治体も合併によって地域の声が届きにくくなっていることから、住民の意識向上と行政の仕組みの変革を同時に行なうことが必要であるという点で、「日本版パリッシュ」の創設・導入への提案をいたしました。(ホームページからもご覧いただけます。)
今月号では、住民自治を拓く市民討議会について、私たちの住むまち三原の活性にむけた、アクションプランについてお伝えしていきます。

公の心を持った市民が積極的に参加して実践できる場を創造し、公の心を呼び覚ました自立した市民が、自立したまちをつかっていく



住民が公共課題を解決＝無作為抽出・有償・討議

各国の地方自治比較

国名	日本	イギリス		ドイツ	フランス	イタリア	スウェーデン	オランダ
国家形態	単一国家	単一国家(四つの旧王国からなる連合国家)		連邦国家	単一国家	単一国家	単一国家	連邦国家
地方自治制度	2層制	2層制の地域	1層制の地域	2層制	3層制	3層制	2層制	連邦国家
地域圏(平均面積)	道州制案(9-13) 13州:29,064	(スコットランド、ウェールズ、北アイルランド、イングランド9地区) 全国12地区平均:20,306 イングランド9地区平均:14,479		ラント(13州・3市) 22,314				プロビンス 12 (3,487)
広域自治体(平均面積)	都道府県 47 (8,039)	カウンティ 34 (3,028)	ロンドン庁 GLA (1,585)	クライス 323(旧市)・117(旧町) (1,105)	レジオン 26 (21,212)	レジオーネ 20 (15,063)	ランスティング 20 (22,498)	
中間自治体(平均面積)					デパルトマン 100 (5,515)	プロヴィンチア 103 (2,925)		
基礎自治体(平均面積)	市町村 (212)	ディストリクト (458)	シティ・バラ (48)	ユニタリー (281)	ゲマインデ (26)	コムーネ (15)	コムーネ (379)	コムーネ (1,552)
準自治体(平均面積)		パリッシュ (11)		パリッシュ				パリッシュ (180)
特徴		イングランドの一部	ロンドンのみ	その他の地域	3大都市のラント	郡は国の行政単位		

現在、地方自治体は住民の声を施策に活かすため、市民アンケートやヒアリング、政策公募、タウンミーティングや市民会議などに取り組んでいます。しかし、これらに参加する住民の多くは、それぞれの分野に興味のある時間的に余裕のある限られた人々であることも事実です。そのため、偏った意見が集約されるのではないかと懸念があります。この懸念を少しでも軽減し、市民主導による協働のまちづくりをさらに推進してゆくため、市民参画機会の創出を行ない、市民の声なき声をくみ上げる必要があると考えます。

協働に必要なシステムはこれだ

市民討議会 (プランクスツェレ)

ドイツから始まりヨーロッパで広く実施されている市民参加の手法「プランクスツェレ」を参考に考案した新しい市民参加のかたち「市民討議会」を中心に「市民の地域政治への参加」を市民討議会の、プランクスツェレをその基本としていること、民主主義的で公平・公正な運営が前提になることから考えて、現在のところ以下のように考えられています。

その他にも守るべき重要なルール(討議不介入の原則、情報公開の原則など)が多数あります。

プランクスツェレとは

プランクスツェレ (Planungszelle : 計画細胞) は、ペーター・C・ディーネル (Peter C. Dienel) ドイツ・ヴパタル大学名誉教授により1970年代に考案された市民参加の手法である。

三原青年会議所でも過去に「住民による合併を考える会」や三原市運動公園に関するワークショップなど、市民と行政が協働でさまざまなテーマで意見交換の場をつくってまいりました。

すでに日本各地でもこの手法を使ってまちの活性化に取り組んでいる市も多くあります。討議の中味を濃くするため、この手法を実施するには、2～3年の単位で継続して行なってゆくことが必要とされています。また地域ごとに合ったやり方にアレンジしてゆくことが重要になってくると思います。

■ どんないろんなことができるの？

市民討議会のテーマには多様に考えられ、自治体のビジョンや政策構想の方向性から、ゴミ問題、子育てなど具体的課題について広く住民の意見を聞くこともできます。また、住民の間で異なった解決策が衝突している係争的課題についても行なうことが可能になります。

市民の夢(アイデア)が集まります

1. 対象者を無作為で抽出して参加要請する
要請→応募→抽選→開催
2. 参加者には謝礼を支払う
3. 少人数(5～6人)によるグループ討議
4. 討議でのまとめを発表、全員で投票
5. 討議前に参加者に必要な情報を提供



自立した地域の創造へ向けて、今こそ市民の英知を結集し“行政が何をしてくれるかではなく、行政に何が出来るか。”という新しい価値観の下に、市民が積極的に社会に参画できる機会を創出し、実践できる社会構築、すなわちソーシャルデザインの実現がいま必要とされ、その手法として「市民討議会」は私たちの住むまち三原でも開催してゆくことが不可欠ではないでしょうか。

あたらしい住民自治を実践しつつある地域の事例

愛媛県松山市では「みんなでつくりよう みんなの松山」のスローガンの基に、市民と共に「知恵」と「工夫」と「市民参加」をキーワードに「憧れ 誇り 日本一のまち松山」を目指したまちづくりを進めています。また活動としては昨年よりテレビ

放映されているNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」を軸に「『坂の上の雲』まちづくり推進協議会」を行政が立ち上げ、市民が基本計画に基づく各事業の推進等に調査・審議し、その結果を市長に提言する役割を担っています。その取り組みの中心に市民が参画をしていることで多様なニーズに対応でき、地域の資源・宝を活かした観光産業振興での更なる発展を目指されています。

